

弘前大学保健管理概要

第43号



2022年

弘前大学保健管理センター

目 次

巻頭言：弘前大学保健管理センター所長	佐藤 研	2
I 報 告		
コロナ禍を生きる若者と取り組んだ自律訓練法による健康教育 －オンラインと対面授業を経験して Health Education with Young People During the COVID-19 Pandemic － Experiencing Autogenic Training in Online and Face-to-Face Learning	弘前大学保健管理センター 高橋 恵子	4
II 令和3年度保健管理業務報告		
1. 保健管理センター年間行事		11
2. 保健管理センター業務対象学生及び職員数		13
3. 学生の健康診断		14
4. 職員の健康診断		23
5. 教育学部附属学校定期健康診断受検状況		29
6. 保健管理センター月別利用状況		30
7. 新型コロナワクチン一括接種について		32
III 令和3年度カウンセリング報告		35
IV 保健管理センター概況		37
編集後記		38

巻 頭 言

弘前大学保健管理概要43号をお届けします。

2020年1月16日に国内で初めて新型コロナの感染者が発表されて以降、現在まで3年以上の間、様々な変異株の出現による感染拡大が繰り返され、大学においても感染対策のために、大学行事や講義、実習、部活動から、学生アルバイト、キャンパスライフ全般に至るまで大きな影響がありました。保健管理センターの活動に関しても、感染対策を考慮した健診の実施（密の回避、消毒、健診項目の見直しなど）、感染者、濃厚接触者、感染症状者の把握や医療機関紹介、県の抗原検査キット配布に関しての情報提供、ワクチン職域接種の実施など、新型コロナ感染対策に関する業務が多くなり、業務内容も大きく変化しました。そんな中、最近になり、本邦での感染者数も減少傾向となり、今後、緩和に向けて大きく方針転換がはかれることとなりました。2023年3月13日からは「マスク着用が個人の判断」、さらに、5月8日以降の感染症法5類への引き下げとなり、インフルエンザ同様の扱いとなります。これから、卒業式、入学式のシーズンを迎え、マスク着用含めた感染対策の緩和、学内における段階的な規制緩和のスケジュールの検討など、今年度の健診実施の詳細検討など、これから5月8日に向け、様々な調整が必要となります。本学では、医学部医学科、保健学科があり、病院実習など、病院内に立ち入る機会も多いことから、今後の状況も踏まえた対応が必要と考えています。

このように、社会は徐々に規制が緩和され、コロナ前の状況に戻りつつあるように思われますが、コロナ禍になってからの3年以上の期間は、様々な社会の仕組みを変化させるのに十分な期間であり、規制が解除となっても、全くコロナ禍以前の社会に戻るということは考えにくく、大学もコロナ禍以降の社会に即したあり方を模索していく必要があります。例えば、感染対策のため、直接の接触機会をなるべく少なくするという観点から、Zoom や Teams などのツールを用いたオンライン講義、学内外の委員会などにおける WEB 会議、ハイブリッドでの学会、研究会などが広く開催されてきました。ネット環境と PC があれば、移動時間などを考慮することなく参加することが可能で経済的にもメリットがあり、非常に便利である一方、対面でないとうまく伝わらない面もあり、やはり、対面のメリットも感じます。今回のコロナ禍で、オンラインでのコミュニケーションが広く普及したのは確かであり、今後、規制緩和に伴い対面の機会は多くなることが予想されますが、オンラインと対面が共存する状態は今後も続くと考えられ、また、うまく活用していくことが必要と思います。また、コロナ禍においては、なるべく接触の機会を少なくして、常にマスクを着用するという生活であり、直接のコミュニケーションの機会がかなり制限され、対人関係への影響も大きかったことが予想されます。4月に入学する新入生は高校生活の3年間をコロナ禍の中で過ごした学年であり、高校野球で優勝した仙台育英の監督が「青春は密です」と発言されていましたが、そのような経験が少ないまま高校生活を送った学年とも言えます。今後の規制緩和に向けて、在校生含め、充実した楽しい学生生活が送れるよう、保健管理センターとしてもサポートできればと考えています。

話題は変わりますが、今後、コロナ禍以降の対策の他、化学物質の自律的管理への移行、また、医師の働き方改革に伴う労働時間管理など、保健衛生に関わる大きな変化も控えており、状況に即した対応が要求されることとなります。学内の諸関連部署と連携の上、乗り越えていけないといけない事項も多く、ご協力を宜しくお願いいたします。

最後に、2023年度の学生、職員健診から、ICカードを用いた健診を実施することとなりました。データのIT管理が可能となり、個人の結果通知についても、学生、教職員とも各自、オンライン上で確認が可能となる予定です。現在、関連各部署にサポートいただき、導入に向けて保健管理センター職員一同、鋭意、準備を進めております。健診実施についても、ご協力のほど、宜しくお願いいたします。

令和5年3月

弘前大学保健管理センター所長

佐藤 研

I 報 告

コロナ禍を生きる若者と取り組んだ自律訓練法による健康教育 －オンラインと対面授業を経験して

Health Education with Young People During the COVID-19 Pandemic
－ Experiencing Autogenic Training in Online and Face-to-Face Learning

高橋 恵子
(弘前大学保健管理センター)

要旨：コロナ禍において自律訓練法（AT）による健康教育を行った。対面とオンライン授業とで、ATの公式習得度に有意な差は認められなかった。コロナ禍において対面でAT練習を行うメリットとしては、仲間と体験を共有できることなど、相互にサポート的な学修環境があげられた。一方、オンラインでは体験を気軽に話せない、ほかの人の様子がわからないなどの課題があったが、ATにより緊張と弛緩のメリハリが引き出され、普通の授業では感じることでできない安心感や、自分自身とより深く対話できた体験などが報告された。ATは、消去動作などの簡単な行動を日常に取り入れることでストレスの緩和を実践しやすい効用もある。多くの学生にとって身体性と向き合うことは新鮮な驚きを伴う体験であった。

体験ベースのAT教育で目指したことは、“生きた身体性”の回復である。知識として知っているだけでは命を守る行動にはつながりにくい。インターネット上での情報のやりとりが人と人とを結ぶ今、身体性をベースとした場の力を通じたコミュニケーションがどのような役割を果たせるか、今後さらに検討を進めたい。

キーワード：コロナ禍、自律訓練法、身体性、場の力、オンライン教育と対面授業

I はじめに

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴い、大学のキャンパスは閉鎖され、学生たちは急激な生活変化への適応を迫られた。2020年度は入学式も中止となり、新入生は入学後も教員や新しい仲間と会えず、大学に所属感をもてないまま数ヶ月を自宅待機で過ごした。在学学生もオンライン授業への移行や課外活動の自粛で日常を失い、アルバイトの雇止めなどで生活が非常に不安定になった。特にコロナ禍は生活リズムの乱れから、倦怠感や疲労、睡眠障害など多岐にわたる健康障害がひきおこされた。

一般に強いストレスに遭った当初は高い緊張感から心身の疲労も自覚しづらいが、その状態が長引くにつれ徐々に疲弊し、症状が顕在化してくる。本学でもパンデミック当初はキャンパス閉鎖に伴い相談件数も比較的少なかったが、夏頃から面接延数は急激に増えはじめ、原因不明のうつ気分、倦怠感、情緒不安など心身の不調の訴えが増加した¹⁾。

保健管理センターでは、長期間にわたって積み重なる疲労やストレスが心身に及ぼす影響についてホームページ上で注意喚起するとともに、全学部生が受講できる教養科目でメンタルヘルスの啓蒙を行い、ストレスケアのための自律訓練法（Autogenic Training：以下AT）による健康教育を実施した。

ATはドイツのSchultz, J. H.によって体系化された心身のリラクゼーションを促す生理心理学的なス

トレス緩和法である²⁾。AT の特徴は、①公式により訓練技法が体系化されており、一人でも集団でも実施可能なこと、②特有の生理的变化がもたらされる体験ベースの訓練法であること、③他律的ではない、セルフコントロールの技法であることがあげられる。

パンデミック当初、本学ではオンライン授業の導入から始まり、翌年からは段階的に対面授業が再開された。本研究ではオンラインと対面での AT による健康教育の実践を通して、AT がコロナ禍を生きる若者のメンタルヘルスに果たした役割と、これからの課題について検討する。

II 方法

1. 対象

全学部生が受講可能な教養授業で、コロナ禍における AT の健康教育を行った。対象の内訳を図1に示す。パンデミック当初はオンライン授業を実施し、120名（男性64名、女性56名；18.8±1.3歳）が受講した。翌年の対面授業では人数を制限して64名（男性34名、女性30名；19.4±2.5歳）で実施された。健康教育の実施時期は4月～8月の前期間であった。オンライン授業では Microsoft Teams を使用、双方向で、各自パソコンなどの端末から AT 学修に臨んだ。対面では受講生が同じ場所、同じ時間に集まって AT 練習を行った。

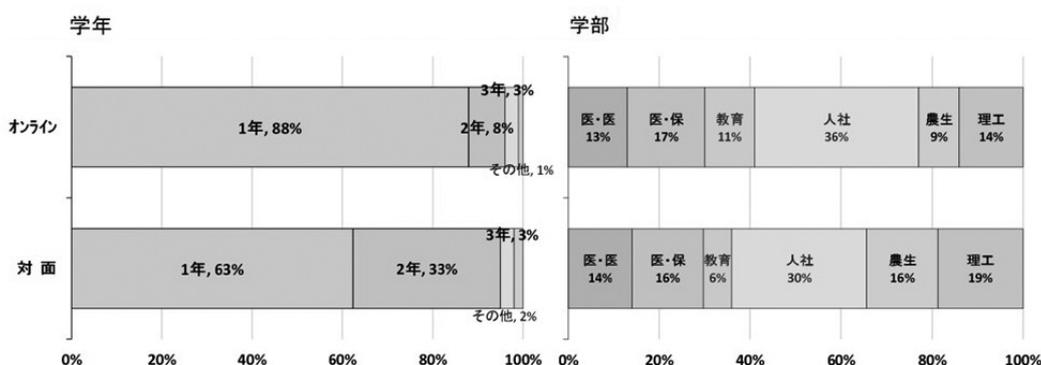


図1 対象者の学年と所属学部

2. AT導入前の準備

AT の導入前に、ストレスに関する心理教育を行った。一人ひとりのストレス反応を確認し、各自が自我関与して AT に取り組めるよう動機づけを行った。その後、姿勢を整え体の緊張を緩める呼吸法や筋弛緩法を練習しながら、AT 学修に入る心と身体の準備を調えた。

3. ATの標準練習

続いて AT の標準練習に入った。標準練習の公式は、背景公式と6つの訓練公式からなるが、本研究では基礎となる背景公式、及び第1（四肢重感）、第2（四肢温感）公式を中心に行った。第1公式（重感）は四肢の緊張が緩みリラックスした状態を、第2公式（温感）では血液循環がよくなって手脚がほどよく温かい状態を促す。

学生は公式練習を自宅等のホームワークで一日に3回程度行うことが推奨され、それらを各自が全体練習に持ち寄って体験内容を共有した。日々の練習内容は AT 記録用紙³⁾に記録し、疑問点の解消に努

めた。進捗度はそれぞれのペースに任せ、自由な場の保証と雰囲気の中で、それぞれの新たな練習目標につなげていった。

4. アンケートの実施と解析

前期の終わりに AT 学修に関するアンケート調査を実施した。項目は練習姿勢、練習頻度、公式修得度、改善症状、練習時の緊張感やセルフコントロールなどであり、体験の自由記述を含んだ。

公式修得度の評点は、それぞれの公式について、「全くわからなかった」(1点)から「非常にわかった」(5点)の5件法で、修得度の合計は20点であった。またセルフコントロールの評定については、ATが「全く役立たなかった」(1点)から「非常に役立った」(5点)までの5件法で回答を求めた。これらの解析には、統計ソフトのSPSS Statistics 19を用いて分析を行った。

Ⅲ 結 果

1. 練習姿勢について

ATの基本姿勢は、単純椅子、安楽椅子、仰臥姿勢の3つがある。図2は受講生が練習で用いたATの訓練姿勢の内訳を示している。オンラインと対面とも、単純椅子の割合が最も高かった。単純椅子姿勢は日常生活での汎用性が高いことから最もよく推奨される姿勢である。特に対面では、授業中に椅子で練習を始めたことから馴染みがあったことが考えられる。一方、オンラインでは、「床座り」が2割と高い比率を示した。これらは自宅のアパート等で床に座って授業を受けていた学修環境が背景にあった。自宅に椅子のない学生も多く、コロナ禍においてはより柔軟な対応が求められた。

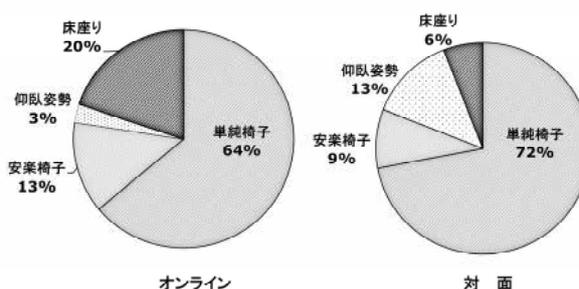


図2 ATの訓練姿勢の内訳

2. 練習頻度について

ホームワーク等のATの練習頻度は、オンラインと対面とも、ほぼ毎日「3回以上」から「1~2回以上」との回答が、全体のおよそ7割を占めた(図3)。

「練習頻度」を従属変数、「教育環境」(オンライン/対面)と「性別」を独立変数とする2要因分散分析を行った結果、統計的な有意差は検出されず、オンラインと対面の教育環境による練習頻度の違いは認められなかった。

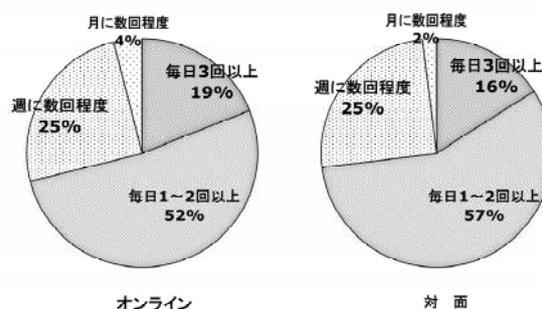


図3 ATの練習頻度

3. ATの公式修得度について

図4は、オンラインと対面における各公式の修得度の評点を示している。

修得度の「評点」を従属変数、「教育環境」(オンライン/対面)と「公式」を独立変数とする2要因分散分析を行ったところ、有意な「公式」の主効果が検出された ($F(3/519)=28.1, p<.001$)。その後の Duncan の多重比較検定によると、「腕」は「脚」に比べて公式習得度が有意に高かった。本研究では、オンラインと対面とも、「腕」についてはおよそ5割の学生が「非常にわかった」、「とてもわかった」の高評点を示したが、他方「脚」については2~3割程度にとどまった。一般に「脚」は「腕」に比べて、「重さ」や「温かさ」を感じづらく、本研究でも同様の傾向が示された。その一方で「教育環境」についての有意な主効果は検出されず、オンラインと対面による公式修得度の違いは認められなかった。

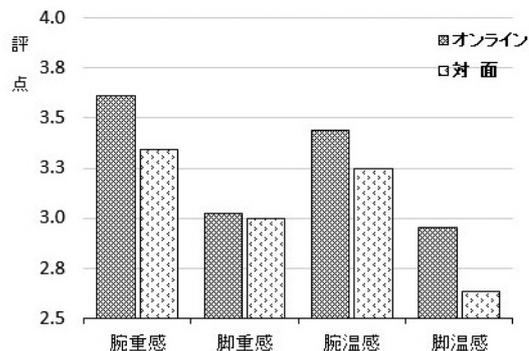


図4 オンラインと対面での公式修得度の評点

4. ATによる改善項目について

AT 学修による改善症状を複数回答で求めたところ、一人平均3.7個の項目があげられた。報告が多かったものとしては、「緊張・不安」、「疲労感」、「集中力」、「睡眠」、「イライラ」、「うつ気分」の軽減であった。このうち2020年度はパンデミック禍の緊張不安、2021年度では長引くコロナ疲れによる疲労感の解消など年度によって特徴的なストレス症状の緩和がみられた。

5. AT練習時の緊張感とセルフコントロールに関する評定について

図5は、オンラインと対面授業における緊張感の大きさを示している。対面では5割、オンラインでは4割弱の学生がAT練習時の緊張感を報告している。

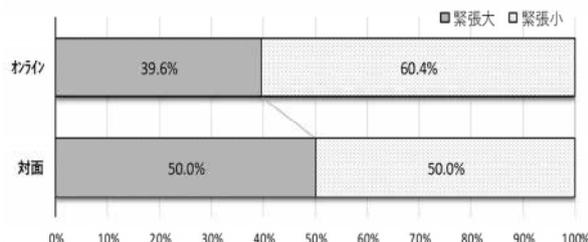


図5 練習環境による緊張感の大きさ

緊張感による公式修得度のちがいをみるため、公式の「評点」を従属変数、「教育環境」(オンライン/対面)と「緊張度」(高/低)を独立変数とする2要因分散分析を行ったところ、教育環境および緊張感による公式修得度について統計的な有意差は認められなかった。

次に、セルフコントロールの「評定値」を従属変数、「教育環境」(オンライン/対面)と「緊張度」(高/低)を独立変数とする2要因分散分析を行ったところ、有意な「教育環境」の主効果が検出された ($F(1/171)=5.1, p<.05$)。これは「対面」でのセルフコントロールの評定値が、「オンライン」よりも有意に得点が高かったことを示している(対面4.4点、オンライン4.1点)。図6は、緊張高群/低群別のセルフコントロールに関する平均評定値を示している。

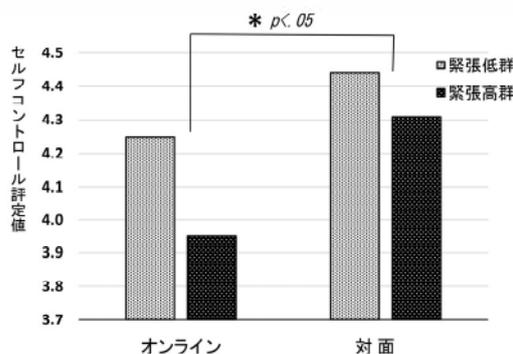


図6 緊張高/低群別のセルフコントロールの評定値

前述したように対面ではオンラインに比べて緊張感が生じやすかったが、これらはATによるセルフコントロールの教育効果につながったことがうかがわれる。

IV 考 察

1. 教育環境との相互作用がAT教育にもたらした効果

オンラインと対面の教育環境のちがいは、AT学修にどのような相互作用をもたらしたか。コロナ禍のオンラインと対面双方における体験者の声を集約し、それぞれの効果と課題について検討した。(表1)

表1 オンラインと対面でのAT学修について体験者の声

オンライン	対 面
<p>[よかった面]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの目を気にしなくていい ・自分のペースで無理なく継続できた ・声に出しながら公式を練習できる ・ひとりで集中しやすい ・リラックスしてできる ・慣れた場所でのいろいろ試しながら練習できたこと <p>[マイナス面]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面越しで具体的な動作のイメージがつかみにくかった ・ほかの人の様子がわからない、正しくできているかどうかからわからない ・周囲の人と相談できない ・体験を気軽に話せない、その場で共有できない ・友達に会えない孤独感がある ・遠隔でみんなとの距離が遠く感じた 	<p>[よかった面]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りがやっているのを見てやる気になった ・感想を交換しながら進められて意欲が増した点 ・体験や感じたことを共有できた ・人それぞれの感じ方や体験があり他者のことも理解できた ・人見知りで集団は苦手だったけど以前より苦でなくなった ・慣れない環境でもATの効果を実感できた <p>[マイナス面]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさん人がいるので緊張してしまい家より難しかった ・人と比べてしまった ・周りの目が気になった ・周囲の音や気配で気が散った ・やってない人が視界に入ると止まる ・特になかった

対面練習では、集団で行う緊張感がしばしば課題となるが、本研究でも対面の方が、オンラインに比べて緊張を感じる学生が多かった。アンケートの自由記述では「周りにたくさん人がいるので緊張してしまった」、「周りの音や気配が気になった」、「人と比べてしまった」などがあげられた。対面学修のメリットとしては、「体験や感じたことを共有しながら進められたので意欲が増した」、「人それぞれの感じ方があるから他者のことも理解できるようになった」、「一人だとあまりやる気になれないが、周りがやっているのを見てその気になった」など相互にサポート的な場の醸成がうかがわれた。ATは身体活動を通じて心とからだ共鳴するノンバーバルなダイナミズムがあり、対面では特に学生同士の相互作用が促進されやすかった。これらはコロナ禍において仲間同士が支え合う、対面学修の教育効果と考えられる。

一方、オンラインでのメリットは、「周りを気にせずできる」、「自分のペースで無理なく集中できる」などがあげられている。マイナス面としては「ほかの人の様子が見えない」、「やり方が正しいか不安」、「みんなとの距離が遠い」「体験を共有できない」などがあげられた。オンラインでは言葉や情報は伝えられても、息を合わせたり身体性を共有するボディセンスの交感は難しい面があった。オンラインと対面に共通した事項としては、緊張と弛緩のメリハリが引き出され、普通の授業では感じることでできない安心感や、自分とより深く対面できたという体験などが報告された。ATは、消去動作などの簡単な行動を日常に取り入れることでストレス緩和を実践しやすい効用もある。多くの学生にとって身体性と向き合うことは新鮮な驚きを伴う体験であった。

2. コロナ禍におけるAT教育の効用について

(1) 新たな健康習慣の形成とセルフケア

コロナ禍は、生活リズムの乱れから自律神経系の様々な健康被害がひきおこされた。とりわけ大学生においては、登校や課外活動の自粛、アルバイトの減少など身体活動が制限された影響は大きく、これにより眠れない、朝起きられないなどの睡眠障害や、ゲームやインターネットへの依存が問題になった。コロナ禍では新たな生活習慣に基づく健康行動やセルフケアが重要となる。ネット上にはたくさんの健康情報が氾濫するが、行動変容の伴わないメンタルヘルスは実効性に乏しい。

表2 ATによる習慣形成についてのアンケート

-
- ・毎日コツコツやる練習になった
 - ・そもそもコロナ禍で自らの体を省みたりすることが一切なかったので、とても新鮮な体験だった
 - ・忙しい中でも自分の体と向き合う時間を確保する大切さに気づいた
 - ・最初は三日坊主で続かないと思っていたが少しずつできたことで自信になった
 - ・意志の強さにとらわれず、やり続けて習慣にすることの大切さを学んだ
-

表2は、定期的な AT 学修による習慣形成に関するアンケートの記述である。コロナ禍において数ヶ月にわたって毎週仲間同士で AT の時間を共有したことは、体験レベルでの新たな健康習慣の形成に寄与したことがうかがわれる。

さらに、このことは表3にみられるコロナ禍の AT 教育の効用として示される。AT を通じ、自分自身の心と体に耳を澄ますことで、自分がどのくらい疲れているのか、リラックスしているのか、気持ちはどうかなど、いろいろな自分を見つめ直すことができたことなど、心身の対話のプロセスが促されたことがうかがわれる。

表3 コロナ禍においてATが役立ったこと

-
- ・スマホから手を放していること
 - ・自分の体について見つめ直すことの大切さに気づいた
 - ・その日の自分の調子のよさが分かるようになった
 - ・穏やかに呼吸を整えることができた
 - ・1番の収穫は自分の体の声に目を向けられるようになったこと
 - ・自分のコンディションが今まで分かっていなかったことに気づいたこと
-

(2) 内面との対話による感情ストレスの緩和

特に日頃から緊張が強い学生にとっては、「疲れた時に回復できる方法を知っている安心感」につながり、「ネガティブな感情が消去動作の簡単な動作で切り替えられる体験」など、感情ストレスの緩和につながったことが報告された。(表4)

前述の通り、AT は集団で行う方が緊張を感じやすいが、訓練を続けていくうちに緊張を緩和できるセルフコントロールの実感にもつながった。また認知面においては「今までできないことばかりに目をむけて心が

表4 AT学修に関する緊張高群者の自由記述

-
- ・毎週自分のことを考える時間ができて、自分のことを大切に考えることを学んだ
 - ・疲れた時に回復できる方法を知っているという安心感が得られた
 - ・ネガティブな感情も AT の簡単な消去動作で切り替えられたことは自信になった
 - ・自分がどのように気持ちを持つかによって集中力やストレスの感じ方が変わってくることを実感した
 - ・自分の心に耳を傾けることがセルフコントロールで大切なことだと気づいた
 - ・教室などの慣れない環境でもリラックスでき AT の効果を実感できた
-

病む傾向が今回の練習を通じて楽になった」など、認知面での修正が促されたことがうかがわれる。

AT 特有の受動的注意集中の意識状態では、外界の刺激から間をとって自己の内に沈潜するマインドフルネスな状態が促進される。普段はあまり意識を向けられない心と体の有り様をありのままに観察する AT の構えは、ストレスに対する抵抗力(レジリエンス)を高める創発性を生み出す。近年、友人に負担

感をかけることを恐れ友だちに悩みを話しづらい若者が増えている。身体ベースで安心安全な場を共有する AT 体験は、若者たちが将来遭遇するであろう危機においても応用できる教育的機会になったと考えられる。

3. ATの健康教育における場の力

対面で AT を行った体験者からは、「自宅とは AT をやる時の空気が違う」、「対面だとその場の空気に包まれながら学習できるので AT をやりやすい」、「周りの人の呼吸や存在感がある」、「その場の空気感や臨場感によって集中できる」などの声が聞かれている。(表5)

AT 練習を続けていくと、たとえば生まれてきてからずっと働き続けてくれている心臓への感謝の気もちなどが湧き上がってくることもあり、本研究でも同様のフィードバックがあげられている。呼吸のリズムを合わせ、身体性を共有する AT のノンバーバルなコミュニケーションは、安心安全の場を醸成する。このような AT による身体志向的アプローチは、コロナ禍のメンタルヘルスにおいてとりわけ必要な要因と考えられた。

表5 対面でのAT練習の体験について

<ul style="list-style-type: none">・実際に対面しながらワークを行うことで、体感の度合いが上がると思う・ひとりでやる時とは、AT をする時の空気が違う・みんなとやっているという一体感があって安心して行うことができた・対面だとその空気に包まれながら学習できるので AT をやりやすい・周りの呼吸だったり物音だったりも集中するきっかけになった・実際の感覚をペアの人と共有できること・通常の授業では感じることができない安心感・周りの人の呼吸や存在感がある・その場の空気感、臨場感によってより集中できる・集団で行うことで、共有認識が生まれた

V おわりに

コロナ禍におけるATの役割

コロナ禍の健康教育として、数ヶ月にわたりオンライン及び対面での AT 教育を行った。頭で考えてもよく“分からない”体験を純粹に面白がってくれた学生たち、不全感や葛藤を抱えながらも最後にはたくさんの気づきと言葉を残してくれた学生たちなど、パンデミック当初から身体ベースの体験知をともに探索してくれた学生たちに深謝したい。

先行きが見えないコロナ禍を生きるということは新たな変容の機会であると同時に、乗り越えるべき壁や試練も大きい。AT 教育で目指したことは、“生きた身体性”の回復である。知識として知っているだけでは命を守るための行動にはつながりにくい。インターネット上の情報のやりとりが人と人との絆をつくる今、身体性をベースとした場の力を通じたコミュニケーションが若者のメンタルヘルスにどのように役立つか、今後さらに検討を進めたい。

文献

- 1) 高橋恵子：コロナ禍の大学生のメンタルヘルス～自律訓練法を活用したオンライン授業による「こころ」と「からだ」を結ぶ健康教育，2021.
- 2) 松岡洋一，松岡素子：自律訓練法，日本評論社，2009.
- 3) 松岡素子，松岡洋一：初めての自律訓練法，日本評論社，2013.

Ⅱ 令和3年度保健管理業務報告

令和3年度

1. 保健管理センター年間行事

月	行 事	内 容	対 象	備 考
4月	職員特殊健康診断	末梢血, 問診票	電離放射線取扱者(看護部異動による新規対象者)	
	幼児・児童・生徒定期健康診断(4月～6月)	※後記載	附属学校園(幼・小・中・特別支援)	
	学生特別定期健康診断	1. 問診票(放射線業務従事者) 2. HBs 抗原・抗体, HCV 抗体(4月～6月)	1. 保健学科(放射線技術科学3年・4年) 2. 保健学科2年, 心理支援科学科2年	第1回
	学生定期健康診断(4月～7月)	1. 問診票, 胸部レントゲン, 内科診察, 血圧, 身長・体重 2. 問診票, 胸部レントゲン, 尿検査, 血圧, 身長・体重 3. 問診票, 尿検査, 血圧, 身長・体重	1. 新入生(学部生・編入学生) 2. 医学部(在学生・大学院生), 大学院1年 3. 上記1.2以外の学生・大学院生	
5月	職員特殊健康診断	各取扱物に対する受検項目(外注) 産業医診察(6月)	有機溶剤・特化物等業務従事者 電離放射線業務従事者	第1回 第1回
	職員特定業務従事者健康診断	問診票, 体重, 血圧, 検尿, 視力・聴力(問診)	深夜業務従事者(看護師, 週1回以上の宿直該当者), 病原体・ホルムアルデヒド・エチレンオキシドを扱う業務従事者	第1回
	生徒・児童心電図検査(5月～6月)	心電図検査	附属学校(小1年, 中1年), 特別支援学校(小1年, 中1年, 高等部1年)	
6月	学生特別定期健康診断	末梢血, 問診票	RI 実験室立入学生	第1回
	学生検尿再検(6月・7月)	早朝尿又は夕食後尿	定期健康診断検尿要再検者(二次検尿)	
7月	職員心電図検査と血液検査	心電図, AST, ALT, γ -GT, 中性脂肪, HDL コレステロール, LDL コレステロール, クレアチニン, 貧血検査, 血糖, 腹囲測定	35歳と40歳以上の職員(文京町地区7月・8月, 本町地区11月・12月に実施)	
8月	職員 VDT 検診	問診票(情報機器作業従事者)	VDT 作業従事者	
9月	職員一般定期健康診断(兼特定業務従事者健康診断)	胸部レントゲン, 検尿, 血圧, 身長・体重, 視力, 聴力, 問診票	全職員(文京町地区9月, 本町地区9月・10月に実施)	第2回

月	行 事	内 容	対 象	備 考
10月	学生特別定期健康診断	1. 末梢血, 問診票 2. 問診票(放射線業務従事者)	1. 保健学科 (放射線技術科学2年) 2. 保健学科 (放射線技術科学3年, 4年)	第2回
	職員ストレスチェック	「職業性ストレス簡易調査票」 (57項目)	全職員	
	総合文化祭	救護班		
	総合型選抜入試	救護班		
11月	職員特殊健康診断	各取扱物に対する受検項目 (外注) 産業医診察	有機溶剤・特化物等業務従事者 電離放射線業務従事者	第2回 第2回
	学生特別定期健康診断	末梢血, 問診票	RI 実験室立入学生	第2回
	季節性インフルエンザワクチン接種	ワクチン接種依頼に応じて実施	学務部職員 (入試担当) 希望者	
1月	大学入学共通テスト	救護班		
	学生特別定期健康診断	HBs 抗原・抗体, HCV 抗体, 末梢血	医学科4年, HB ワクチンを接種した医学科 5・6年	
2月	(入試) 前期日程	救護班		
3月	(入試) 後期日程	救護班		
	職員B型肝炎検査	HBs 抗原・抗体	HB ワクチン接種者, 来年度 HB ワクチン希望者	
	学生定期健康診断	検尿, 血圧, 身長・体重測定, 胸部レントゲン	保健学科4年 (理学・作業療法学) (4月から実習で受診できないため)	

健康診断証明書
健康相談
応急処置

— 随時

※ 幼児・児童・生徒定期健康診断検査項目

1. 身長及び体重
2. 栄養状態
3. 脊柱及び胸部の疾病及び異常の有無
並びに四肢の状態
4. 視力及び聴力
5. 目の疾病及び異常の有無
6. 耳鼻咽喉頭疾患及び皮膚疾患の有無
7. 歯及び口腔の疾病及び異常の有無
8. 結核の有無
9. 心臓の疾病及び異常の有無
10. 尿
11. その他の疾病及び異常の有無

備考

左記の検査項目のうち
幼稚園は8を除く項目を実施。
8は小・中学校は問診票にて実施し, 特別支援学校
高等部は胸部レントゲン実施。
9のうち心電図検査及び10は保健管理センターで実施。
中学校の2, 3, 5, 6, 9, 11は医学部等にて実施。

2. 保健管理センター業務対象学生及び職員数

大学

令和3年5月1日現在

学部	性別	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	計
人文社会科学部	男女	115	147	115	161			538
		167	138	173	152			630
教育学部	男女	51	70	70	81			272
		116	103	108	114			441
医学科	男女	75	84	67	81	71	94	472
		42	55	63	72	62	51	345
保健学科 (心理支援科学科)	男女	61	72	65	67			265
		160	142	143	145			590
理工学部	男女	314	322	294	343			1,273
		57	46	65	63			231
農学生命科学部	男女	114	127	133	154			528
		104	96	90	91			381
計	男女	730	822	744	887	71	94	3,348
		646	580	642	637	62	51	2,618
合計		1,376	1,402	1,386	1,524	133	145	5,966

大学院

学部	性別	1年次	2年次	3年次	4年次	計
人文社会科学研究科	男女	10	12			22
		8	11			19
人文社会科学研究科 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
教育学研究科	男女	12	11			23
		8	7			15
医学研究科	男女	43	34	35	71	183
		26	12	18	30	86
医学研究科 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
保健学研究科 博士前期課程	男女	20	25			45
		12	13			25
保健学研究科 博士後期課程	男女	10	10	18		38
		3	3	12		18
理工学研究科 博士前期課程	男女	112	97			209
		10	12			22
理工学研究科 博士前期課程 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
理工学研究科 博士後期課程	男女	8	3	12		23
		2	4	4		10
理工学研究科 博士後期課程 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
農学生命科学研究科	男女	26	33			59
		19	14			33
農学生命科学研究科 (秋季入学)	男女	0				0
		0				0
地域社会研究科	男女	5	4	15		24
		0	2	12		14
地域共創科学研究科	男女	12	13			25
		14	12			26
計	男女	258	242	80	71	651
		102	90	46	30	268
合計		360	332	126	101	919

職員

令和3年9月1日現在

部局	性別	職員数	35歳と40歳以上	40歳以上
事務局 ※	男女	191	151	143
		184	125	121
人文社会科学部	男女	60	52	51
		25	18	18
教育学部	男女	121	96	95
		99	76	75
医学研究科	男女	174	135	135
		141	101	99
保健学研究科	男女	63	44	42
		52	36	36
医学部附属病院	男女	402	144	131
		904	446	424
理工学研究科	男女	109	94	93
		21	16	15
農学生命科学部	男女	89	82	80
		29	18	18
計	男女	1,209	798	770
		1,455	836	806
合計		2,664	1,634	1,576

※附属研究所、機構、本部、学内共同施設等を含む

教育学部附属学校

学校	性別	児童・生徒数
小学校	男女	254
		273
中学校	男女	227
		226
特別支援学校	男女	38
		15
幼稚園	男女	30
		24
計	男女	549
		538
合計		1,087

3. 学生の健康診断

(1) 定期健康診断受検率及び結果

① 大学生（新入生・編入学生）

学 部	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目		
				胸 部 写 真		血 圧 測 定
				受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)
人 文 社 会 学 部	1	男	115	102 (88.7)	1 (1.0)	102 (88.7)
		女	167	164 (98.2)	4 (2.4)	164 (98.2)
教 育 学 部	1	男	51	49 (96.1)	1 (2.0)	49 (96.1)
		女	116	114 (98.3)	3 (2.6)	113 (97.4)
医 学 部 (医 学 科)	1	男	73	73 (100.0)	1 (1.4)	73 (100.0)
		女	39	39 (100.0)		39 (100.0)
医 学 部 (保 健 学 科)	1	男	58	56 (96.6)		56 (96.6)
		女	152	151 (99.3)		151 (99.3)
医 学 部 (心 理 支 援 学 科)	1	男	3	3 (100.0)		3 (100.0)
		女	8	8 (100.0)		8 (100.0)
理 工 学 部	1	男	314	286 (91.1)	2 (0.7)	285 (90.8)
		女	57	57 (100.0)	2 (3.5)	57 (100.0)
農 学 生 命 学 部	1	男	114	109 (95.6)		109 (95.6)
		女	104	101 (97.1)		101 (97.1)
医 学 科 (編 入 学 生)	2	男	12	12 (100.0)		12 (100.0)
		女	8	8 (100.0)		8 (100.0)
保 健 学 科 (編 入 学 生)	3	男	1	1 (100.0)		1 (100.0)
		女	2	2 (100.0)		2 (100.0)
理 工 学 部 (編 入 学 生)	3	男	4	2 (50.0)		2 (50.0)
		女	1	1 (100.0)		1 (100.0)
農 学 生 命 学 部 (編 入 学 生)	3	男	1	1 (100.0)		1 (100.0)
		女	1	1 (100.0)		1 (100.0)
小 計		男	746	694 (93.0)	5 (0.7)	693 (92.9)
		女	655	646 (98.6)	9 (1.4)	645 (98.5)
合 計			1,401	1,340 (95.6)	14 (1.0)	1,338 (95.5)

注) 空欄は該当者なし

②大学生（医学部在学生）

学 部	学 性	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目							
			胸 部 写 真		尿 検 査 ※			血 圧 測 定		
			受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)	
年 別	蛋 白	糖	潜 血							
医 学 科	1	男	2	2 (100.0)		2 (100.0)				2 (100.0)
		女	3	2 (66.7)		0 (0.0)				2 (66.7)
	2	男	72	67 (93.1)	4 (6.0)	66 (91.7)			1(1.5)	67 (93.1)
		女	47	47 (100.0)		46 (97.9)				47 (100.0)
	3	男	67	65 (97.0)	1 (1.5)	64 (95.5)	1(1.6)	1(1.6)	1(1.6)	65 (97.0)
		女	63	61 (96.8)		61 (96.8)				61 (96.8)
	4	男	81	77 (95.1)		77 (95.1)	2(2.6)		1(1.3)	77 (95.1)
		女	72	70 (97.2)		68 (94.4)		1(1.5)	1(1.5)	70 (97.2)
	5	男	71	56 (78.9)		56 (78.9)	1(1.8)	2(3.6)	2(3.6)	56 (78.9)
		女	62	59 (95.2)		58 (93.5)	1(1.7)		1(1.7)	59 (95.2)
6	男	94	83 (88.3)		83 (88.3)				83 (88.3)	
	女	51	48 (94.1)		48 (94.1)			1(2.1)	48 (94.1)	
計	男	387	350 (90.4)	5 (1.4)	348 (89.9)	4(1.1)	3(0.9)	5(1.4)	350 (90.4)	
	女	298	287 (96.3)	0 (0.0)	281 (94.3)	1(0.4)	1(0.4)	3(1.1)	287 (96.3)	
保 健 学 科	2	男	68	67 (98.5)	1 (1.5)	66 (97.1)	1(1.5)			67 (98.5)
		女	136	135 (99.3)		135 (99.3)			1(0.7)	135 (99.3)
	3	男	64	63 (98.4)		63 (98.4)	2(3.2)		1(1.6)	64 (100.0)
		女	143	143 (100.0)	2 (1.4)	143 (100.0)				143 (100.0)
	4	男	67	66 (98.5)	1 (1.5)	66 (98.5)		1(1.5)		66 (98.5)
女		145	141 (97.2)	3 (2.1)	141 (97.2)				141 (97.2)	
計	男	199	196 (98.5)	2 (1.0)	195 (98.0)	3(1.5)	1(0.5)	1(0.5)	197 (99.0)	
	女	424	419 (98.8)	5 (1.2)	419 (98.8)	0(0.0)	0(0.0)	1(0.2)	419 (98.8)	
心 理 支 援 学 科	2	男	4	4 (100.0)		4 (100.0)				4 (100.0)
		女	6	6 (100.0)		6 (100.0)				6 (100.0)
	計	男	4	4 (100.0)		4 (100.0)				4 (100.0)
	女	6	6 (100.0)		6 (100.0)				6 (100.0)	
小 計	男	590	550 (93.2)	7 (1.3)	547 (92.7)	7(1.3)	4(0.7)	6(1.1)	551 (93.4)	
	女	728	712 (97.8)	5 (0.7)	706 (97.0)	1(0.1)	1(0.1)	4(0.6)	712 (97.8)	
合 計		1,318	1,262 (95.8)	12 (1.0)	1,253 (95.1)	8(0.6)	5(0.4)	10(0.8)	1,263 (95.8)	

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

③在校生（医学部以外）

学部	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目				
				尿 検 査 ※			血 圧 測 定	
				受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)
					蛋 白	糖	潜 血	
人文社会科学部	2	男	147	78 (53.1)		1 (1.3)		79 (53.7)
		女	138	110 (79.7)	1 (0.9)		2 (1.8)	113 (81.9)
	3	男	115	74 (64.3)				74 (64.3)
		女	173	139 (80.3)		1 (0.7)	5 (3.6)	142 (82.1)
	4	男	161	71 (44.1)	2 (2.8)		1 (1.4)	73 (45.3)
		女	152	114 (75.0)				114 (75.0)
計	男	423	223 (52.7)	2 (0.9)	1 (0.4)	1 (0.4)	226 (53.4)	
女	463	363 (78.4)	1 (0.3)	1 (0.3)	7 (1.9)	369 (79.7)		
教育学部	2	男	70	54 (77.1)	2 (3.7)		1 (1.9)	55 (78.6)
		女	103	84 (81.6)			1 (1.2)	86 (83.5)
	3	男	70	22 (31.4)	1 (4.5)			22 (31.4)
		女	108	65 (60.2)				66 (61.1)
	4	男	81	38 (46.9)			1 (2.6)	39 (48.1)
		女	114	53 (46.5)	1 (1.9)		1 (1.9)	53 (46.5)
計	男	221	114 (51.6)	3 (2.6)	0 (0.0)	2 (1.8)	116 (52.5)	
女	325	202 (62.2)	1 (0.5)	0 (0.0)	2 (1.0)	205 (63.1)		
理工学部	2	男	322	208 (64.6)	2 (1.0)	2 (1.0)	3 (1.4)	211 (65.5)
		女	46	34 (73.9)			2 (5.9)	34 (73.9)
	3	男	294	200 (68.0)	2 (1.0)		1 (0.5)	203 (69.0)
		女	65	50 (76.9)			1 (2.0)	52 (80.0)
	4	男	343	201 (58.6)	1 (0.5)	2 (1.0)	3 (1.5)	202 (58.9)
		女	63	51 (81.0)				52 (82.5)
計	男	959	609 (63.5)	5 (0.8)	4 (0.7)	7 (1.1)	616 (64.2)	
女	174	135 (77.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (2.2)	138 (79.3)		
農学生命科学部	2	男	127	82 (64.6)	2 (2.4)			83 (65.4)
		女	96	87 (90.6)	2 (2.3)			88 (91.7)
	3	男	133	101 (75.9)	1 (1.0)	1 (1.0)		102 (76.7)
		女	90	71 (78.9)	1 (1.4)		1 (1.4)	73 (81.1)
	4	男	153	77 (50.3)				77 (50.3)
		女	91	59 (64.8)	1 (1.7)		1 (1.7)	59 (64.8)
計	男	413	260 (63.0)	3 (1.2)	1 (0.4)	0 (0.0)	262 (63.4)	
女	277	216 (78.0)	4 (1.9)	0 (0.0)	2 (0.9)	220 (79.4)		
小計	男	2,016	1,206 (59.8)	13 (1.1)	6 (0.5)	10 (0.8)	1,220 (60.5)	
	女	1,239	916 (73.9)	6 (0.7)	1 (0.1)	14 (1.5)	932 (75.2)	
合計		3,255	2,122 (65.2)	19 (0.9)	7 (0.3)	24 (1.1)	2,152 (66.1)	

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

④大学院（新入生・医学系学生）… 胸部X-P対象者

大 学 院	学 性	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目							
			胸 部 写 真		尿 検 査 ※			血 圧 測 定		
			受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)	
						蛋 白	糖	潜 血		
年 別										
人文社会科学 研 究 科	1	男	10	9 (90.0)		9 (90.0)				9 (90.0)
		女	8	5 (62.5)		5 (62.5)				5 (62.5)
教育学研究科	1	男	12	8 (66.7)		8 (66.7)				8 (66.7)
		女	8	4 (50.0)		4 (50.0)				4 (50.0)
医学研究科	1	男	43	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
		女	26	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
	2	男	34	2 (5.9)		2 (5.9)				2 (5.9)
		女	12	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
	3	男	35	2 (5.7)		2 (5.7)				2 (5.7)
		女	18	1 (5.6)		1 (5.6)				1 (5.6)
	4	男	71	1 (1.4)		1 (1.4)				1 (1.4)
		女	30	1 (3.3)		1 (3.3)				1 (3.3)
	計	男	183	5 (2.7)	0 (0.0)	5 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (2.7)
		女	86	2 (2.3)	0 (0.0)	2 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.3)
保健学研究科	1	男	30	5 (16.7)		5 (16.7)				5 (16.7)
		女	15	3 (20.0)		3 (20.0)				3 (20.0)
	2	男	35	6 (17.1)	1 (16.7)	6 (17.1)				6 (17.1)
		女	16	1 (6.3)		1 (6.3)				1 (6.3)
	3 (後期)	男	18	1 (5.6)		1 (5.6)				1 (5.6)
		女	12	0 (0.0)		0 (0.0)				0 (0.0)
計	男	83	12 (14.5)	1 (8.3)	12 (14.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (14.5)	
	女	43	4 (9.3)	0 (0.0)	4 (9.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (9.3)	
理工学研究科	1	男	120	100 (83.3)	2 (2.0)	101 (84.2)	1 (1.0)	1 (1.0)	4 (4.0)	101 (84.2)
		女	12	9 (75.0)		9 (75.0)				9 (75.0)
農学生命 科学研究科	1	男	26	18 (69.2)		18 (69.2)				18 (69.2)
		女	19	13 (68.4)		13 (68.4)				13 (68.4)
地域社会研究科	1	男	5	1 (20.0)		1 (20.0)				1 (20.0)
		女	0							
地域共創科学 研 究 科	1	男	12	8 (66.7)		8 (66.7)				8 (66.7)
		女	14	11 (78.6)		11 (78.6)				11 (78.6)
小 計	男	女	451	161 (35.7)	3 (1.9)	154 (34.1)	1 (0.6)	1 (0.6)	4 (2.6)	154 (34.1)
		女	190	48 (25.3)	0 (0.0)	37 (19.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	37 (19.5)
合 計			641	209 (32.6)	3 (1.4)	191 (29.8)	1 (0.5)	1 (0.5)	4 (2.1)	191 (29.8)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

⑤大学院（秋季入学生）… 胸部X-P対象者

大学院	学 性	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目							
			胸 部 写 真		尿 検 査 ※			血 圧 測 定		
			受 検 者 数 (%)	要 精 検 者 数 (%)	受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)	
						蛋 白	糖	潜 血		
人文社会科学 研 究 科	1	男	0							
		女	1	0 (0.0)		0 (0.0)			0 (0.0)	
理工学研究科	1	男	1	1 (100.0)		1 (100.0)			1 (100.0)	
		女	2	2 (100.0)		2 (100.0)			2 (100.0)	
小 計		男	1	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
		女	3	2 (66.7)	0 (0.0)	2 (66.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (66.7)
合 計			4	3 (75.0)	0 (0.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (75.0)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

⑥大学院（医学系以外在校生）

大学院	学 性	受 検 対 象 者 数	検 査 項 目					
			尿 検 査 ※			血 圧 測 定		
			受 検 者 数 (%)	有 所 見 者 数 (%)			受 検 者 数 (%)	
				蛋 白	糖	潜 血		
人文社会科学 研 究 科	2	男	12	3 (25.0)				3 (25.0)
		女	11	2 (18.2)				2 (18.2)
教育学研究科	2	男	11	0 (0.0)				0 (0.0)
		女	7	1 (14.3)				1 (14.3)
理工学研究科	2	男	100	68 (68.0)		1 (1.5)		68 (68.0)
		女	16	12 (75.0)				12 (75.0)
	3 (後期)	男	12	2 (16.7)				2 (16.7)
		女	4	0 (0.0)				0 (0.0)
小 計		男	112	70 (62.5)				70 (62.5)
		女	20	12 (60.0)				12 (60.0)
農学生命科学 研 究 科	2	男	33	16 (48.5)				16 (48.5)
		女	14	6 (42.9)				6 (42.9)
地域社会研究科	2	男	4	0 (0.0)				0 (0.0)
		女	2	0 (0.0)				0 (0.0)
	3	男	15	0 (0.0)				0 (0.0)
		女	12	1 (8.3)				1 (8.3)
小 計		男	19	0 (0.0)				0 (0.0)
		女	14	1 (7.1)				1 (7.1)
地域共創科学 研 究 科	計	男	13	7 (53.9)			1 (14.3)	7 (53.9)
		女	12	9 (75.0)				9 (75.0)
小 計		男	200	96 (48.0)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (1.0)	96 (48.0)
		女	78	31 (39.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (39.7)
合 計			278	127 (45.7)	0 (0.0)	1 (0.8)	1 (0.8)	127 (45.7)

※ 一次検診
注) 空欄は該当者なし

(2) 内科検診
大学 (入学年次)

学 部	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	内 科				
				貧 血 疑	甲 状 腺 腫 疑	心 雑 音	不 整 脈	そ の 他
人 文 社 会 科 学 部	男	115	102 (88.7)			1		
	女	167	164 (98.2)		1			
教 育 学 部	男	51	49 (96.1)					
	女	116	114 (98.3)		1	2	1	
医 学 部	男	134	132 (98.5)					
	女	199	198 (99.5)	1	4	2	1	
理 工 学 部	男	314	285 (90.8)	1				1
	女	57	57 (100.0)					
農 学 生 命 科 学 部	男	114	109 (95.6)					
	女	104	101 (97.1)					1
編 入 学 (学 士 編 入 含 む)	男	18	16 (88.9)					
	女	12	11 (91.7)					
小 計	男	746	693 (92.9)	1	0	1	1	0
	女	655	645 (98.5)	1	6	4	3	0
合 計		1,401	1,338 (95.5)	2	6	5	4	0

注) 空欄は該当者なし

(3) 学生特別定期健康診断（対象学生は病院実習とR I 実験室に立ち入る学生）

①対象学生・学部及び検査項目・実施時期・回数

対象学部・学科・専攻		学年	検査項目	実施時期	回数		
医 学 部	医 学 科	2 年	問診票, 末梢血	4 月	1 回		
		4 年	HBs抗原・抗体, HCV抗体	1 月	1 回		
	保健学科	看護学 放射線技術科学 検査技術科学 理学療法学 作業療法学	2 年	HBs抗原・抗体, HCV抗体	4～6 月	1 回	
			放射線技術科学	2 年	末梢血・問診票	10月	1 回
			放射線技術科学	3年・4年	問診票	4月・10月	2 回
	心理支援科学科		2 年	HBs抗原・抗体, HCV抗体	5 月	1 回	
	保健学研究科	RI取扱および放射線実習に関わる学部学生, 院生		末梢血 (新規のみ)・問診票	6月・11月	2 回	
理工学研究科							
農学生命科学部							
青森キャンパス							

②病院実習生（受検率及び結果）

医学部 医学科

学 科	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝 機 能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性 者数	陽性 者数	陽性 者数
医 学 科	4	男 女	79 72	77 (97.5) 72 (100.0)		72 67	
合 計			151	149 (98.7)	0	139	0

注) 空欄は該当者なし

医学部 保健学科

専 攻	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝 機 能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性 者数	陽性 者数	陽性 者数
看護学	2	男 女	12 67	12 (100.0) 67 (100.0)		11 67	
放射線 技術学	2	男 女	20 23	20 (100.0) 23 (100.0)		20 23	
検 査 技術学	2	男 女	13 27	13 (100.0) 27 (100.0)		13 27	
理 学 療法学	2	男 女	15 7	15 (100.0) 7 (100.0)		15 7	
作 業 療法学	2	男 女	8 12	8 (100.0) 12 (100.0)		8 12	
小 計		男 女	68 136	68 (100.0) 136 (100.0)	0 0	67 136	0 0
合 計			204	204 (100.0)	0	203	0

注) 空欄は該当者なし

医学部 心理支援科学科

学 科	学 年	性 別	受 検 対 象 者 数	受 検 者 数 (%)	肝 機 能		
					HBs 抗原	HBs 抗体	HCV 抗体
					陽性 者数	陽性 者数	陽性 者数
心理支援 科学科	2	男 女	4 6	4(100.0) 6(100.0)		4 6	
合 計			10	10(100.0)	0	10	0

注) 空欄は該当者なし

③ R I 実験室立入実習生 末梢血・自覚症状および皮膚科（問診票）

学部学科等		性別	第 1 回 目											
			受検対象者数	末 梢 血										自覚症状他 (問診票)
				末梢血対象者数	受検者数 (%)	白血球数(10 ³ /μℓ)			血色素量(g/dℓ)				受検者数 (%)	
						4.00 未満	4.00 ∩ 10.00 未満	10.00 以上	女		男			
			10 未満	10 以上	11 未満	11 以上								
医 学 部	医 学 科 2 年	男	76	76	75 (98.7)	4	69	2				75	76 (100.0)	
		女	54	54	54 (100.0)	1	49	4		54			54 (100.0)	
	保健学科放射線 技術学科 3 年	男	27	0									27 (100.0)	
		女	15	0									15 (100.0)	
保健学科放射線 技術学科 4 年	男	27	0									27 (100.0)		
	女	20	0									20 (100.0)		
保健学研究科	学生及び大学院	男	2	0								2 (100.0)		
理 工 学 部	学生及び大学院	男	17	8	8 (100.0)		8					8	17 (100.0)	
		女	3	1	1 (100.0)		1			1			3 (100.0)	
小 計		男	149	84	83 (98.8)	4	77	2	0	0	0	83	149 (100.0)	
		女	92	55	55 (100.0)	1	50	4	0	55	0	0	92 (100.0)	
合 計			241	139	138 (99.3)	5	127	6	0	55	0	83	241 (100.0)	

学部学科等		性別	第 2 回 目											
			受検対象者数	末 梢 血										自覚症状他 (問診票)
				末梢血対象者数	受検者数 (%)	白血球数(10 ³ /μℓ)			血色素量(g/dℓ)				受検者数 (%)	
						4.00 未満	4.00 ∩ 10.00 未満	10.00 以上	女		男			
			10 未満	10 以上	11 未満	11 以上								
医 学 部	保健学科放射線 技術学科 2 年	男	20	20	20 (100.0)		19	1				20	20 (100.0)	
		女	23	23	23 (100.0)	1	21	1		23			23 (100.0)	
	保健学科放射線 技術学科 3 年	男	27	0									27 (100.0)	
		女	15	0									15 (100.0)	
保健学科放射線 技術学科 4 年	男	24	0									24 (100.0)		
	女	18	0									18 (100.0)		
保健学研究科	学生及び大学院	男	2	0								2 (100.0)		
理 工 学 部	学生及び大学院	男	17	2	2 (100.0)		2					2	17 (100.0)	
		女	3										3 (100.0)	
小 計		男	90	22	22 (100.0)	0	21	1	0	0	0	22	90 (100.0)	
		女	59	23	23 (100.0)	1	21	1	0	23	0	0	59 (100.0)	
合 計			149	45	45 (100.0)	1	42	2	0	23	0	22	149 (100.0)	

4. 職員の健康診断

(1) 定期健康診断受検率及び結果

性 別	事務局等		人文社会科学部		教育学部		医学研究科		保健学研究科		附属病院		理工学研究科		農学生命科学部		小 計		合 計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
受検対象者	191	184	60	25	121	99	174	141	63	52	402	904	109	21	89	29	1,209	1,455	2,664
受検者総数(%)	190(99.5)	182(98.9)	54(90.0)	24(96.0)	114(94.2)	94(94.9)	173(99.4)	139(98.6)	62(98.4)	52(100.0)	401(99.8)	902(99.8)	102(93.6)	21(100.0)	85(95.5)	29(100.0)	1,181(97.7)	1,443(99.2)	2,624(98.5)
内 人間ドック・雇入時健診・ 健診証明書提出者数	25	16	10	3	22	17	20	5	5	3	5	8	20	1	5	1	112	54	166
	165	166	44	21	92	77	153	134	57	49	396	894	82	20	80	28	1,069	1,389	2,458
未 検 者	1(0.5)	2(1.1)	6(10.0)	1(4.0)	7(5.8)	5(5.1)	1(0.6)	2(1.4)	1(1.6)	0(0.0)	1(1.9)	2(0.2)	7(6.4)	0(0.0)	4(4.5)	0(0.0)	28(2.3)	12(0.8)	40(1.5)
保健管理センターでの受検者 (外注・人間ドック・雇入時健診 ・健診証明書提出者以外)	4(2.5)	27(17.2)	2(9.5)	2(9.5)	2(2.9)	6(15.0)	3(2.0)	15(11.3)	1(1.8)	4(8.2)	10(2.5)	89(10.0)	1(1.2)	1(5.0)	1(1.6)	2(10.0)	22(2.2)	146(10.9)	168(7.1)
	85(51.6)	99(63.1)	31(70.5)	12(57.1)	43(62.3)	31(77.5)	94(61.4)	84(63.2)	38(66.7)	36(73.5)	257(64.9)	657(73.5)	49(59.8)	16(80.0)	43(68.3)	14(70.0)	637(62.3)	949(71.1)	1,586(67.3)
	51(32.1)	26(16.6)	12(27.3)	5(23.8)	19(27.5)	3(7.5)	46(30.1)	23(17.3)	16(28.1)	7(14.3)	102(25.8)	102(11.4)	27(32.9)	2(10.0)	13(20.6)	3(15.0)	286(28.0)	171(12.8)	457(19.1)
	15(9.4)	5(3.2)	1(2.3)		4(5.8)		5(3.3)	10(7.5)	2(3.5)	1(2.0)	23(5.8)	36(4.0)	4(4.9)		5(7.9)		59(5.8)	52(3.9)	111(4.7)
肥満3度(%)	5(3.1)				1(1.4)		5(3.3)	1(0.8)		1(2.0)	4(1.0)	5(0.6)	1(1.2)		1(1.6)		17(1.7)	8(0.6)	25(1.1)
	2(1.3)										2(0.2)						2(0.2)	2(0.1)	4(0.2)
判定なし(妊娠中)				2(9.5)							3(0.3)			1(0.5)				6(0.4)	6(0.3)
胸部 写真	1(1.5)	4(1.5)	1(1.5)				1(1.5)	1(1.5)		1(1.5)	1(0.3)	8(0.9)	1(1.5)			1(1.5)	5(0.5)	15(1.1)	20(0.8)
		1(0.6)			1(1.4)		2(1.3)				2(0.5)	12(1.3)			1(1.6)		6(0.6)	13(1.0)	19(0.8)
尿 糖	3(1.9)						1(0.7)	2(1.5)		2(4.1)	4(1.0)	4(0.4)	4(4.9)	1(5.0)			12(1.2)	9(0.7)	21(0.9)
	2(1.3)	4(2.5)					2(1.3)	3(2.3)	1(1.8)		3(0.8)	14(1.6)	1(1.2)	1(5.0)			9(0.9)	23(1.7)	32(1.4)
血 圧	63(39.6)	20(12.7)	19(43.2)	4(19.0)	28(40.6)	6(15.0)	49(32.0)	23(17.3)	15(26.3)	7(14.3)	74(18.7)	71(7.9)	28(34.1)	6(30.0)	23(36.5)	6(30.0)	299(29.2)	143(10.7)	442(18.8)
	5(3.1)	1(0.6)	3(6.8)				3(2.0)	2(1.5)	1(1.8)		8(2.0)	1(0.1)	2(2.4)	1(5.0)	4(6.3)	1(5.0)	26(2.5)	6(0.4)	32(1.4)
要 指 導 者 数	59(37.1)	63(40.1)	17(38.6)	7(33.3)	16(23.2)	8(20.0)	46(30.1)	51(38.3)	14(24.6)	20(40.8)	106(26.8)	255(28.5)	23(28.0)	5(25.0)	14(22.2)	8(40.0)	295(28.8)	417(31.3)	712(30.2)
	17(10.7)	4(2.5)	6(13.6)	3(14.3)	4(5.8)	1(2.5)	4(2.6)	4(3.0)	2(3.5)	2(4.1)	13(3.3)	20(2.2)	1(1.2)		3(4.8)		50(4.9)	34(2.5)	84(3.6)

その他、週30時間未満勤務者27名受検

注) 空欄は該当者なし

(2) 生活習慣病健診

①心電図検査

(35歳と40歳以上)

部 局 名	性別	受検対象者数	受検者総数 (%)	内訳		保健管理センター 実施分有所見者数 (%)
				人間ドック、外注 雇 入 時 等	保 健 管 理 セ ン タ ー	
事 務 局 等	男	151	150 (99.3)	27	123	34 (22.7)
	女	125	123 (98.4)	19	104	20 (16.3)
人文社会科学部	男	52	42 (80.8)	5	37	8 (19.0)
	女	18	14 (77.8)	2	12	2 (14.3)
教 育 学 部	男	96	88 (91.7)	38	50	14 (15.9)
	女	76	73 (96.1)	46	27	7 (9.6)
医 学 研 究 科	男	135	130 (96.3)	20	110	25 (19.2)
	女	101	99 (98.0)	6	93	10 (10.1)
保健学研究科	男	44	42 (95.5)	6	36	5 (11.9)
	女	36	36 (100.0)	2	34	5 (13.9)
医学部附属病院	男	144	137 (95.1)	6	131	21 (15.3)
	女	444	442 (99.5)	9	433	65 (14.7)
理工学研究科	男	94	81 (86.2)	23	58	9 (11.1)
	女	16	16 (100.0)	2	14	4 (25.0)
農学生命科学部	男	82	77 (93.9)	19	58	11 (14.3)
	女	18	18 (100.0)	6	12	4 (22.2)
小 計	男	798	747 (93.6)	144	603	127 (17.0)
	女	834	821 (98.4)	92	729	117 (14.3)
合 計		1,632	1,568 (96.1)	236	1,332	244 (15.6)

所見内訳 (のべ人数)

所 見	男	女
心筋障害	40	44
WPW症候群	1	1
QT延長		6
心室期外収縮	8	11
上室期外収縮	8	7
完全右脚ブロック	13	5
不完全右脚ブロック	6	3
心室内伝導異常	19	8
I度房室ブロック	13	7
洞性徐脈	11	9
洞性頻脈	2	
軸偏位	14	9
その他	9	5
合 計	144	115

注) 空欄は該当者なし

(35歳, 40歳以上)

②血液検査 (肝機能・血中脂質・血糖・貧血・腎機能)

部局名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)	内訳		肝機能判定			血中脂質判定			糖代謝判定			貧血判定			腎機能判定								
				外注・雇入 時・人間 ドッグ等	保健管理 センター で実施	AST, ALT, γ-GTP			TG, HDL-C, LDL-C			BS			RBC, Hb			e-GFR								
						※※ A	C	D	E	A	B	C	D	E	A	C	D	E	A	C	D	E				
事務局等※	男	151	150 (99.3)	27	123	78	23	19	3	100	8	9	5	1	96	10	5	12	102	15	6	0	107	13	1	2
	女	125	123 (98.4)	19	104	73	28	3	0	80	16	2	4	2	99	2	1	2	89	5	10	0	93	11	0	0
人文社会科学部	男	52	42 (80.8)	5	37	25	9	3	0	30	3	2	2	0	33	2	0	2	34	3	0	0	29	7	0	1
	女	18	14 (77.8)	2	12	8	3	1	0	8	4	0	0	0	12	0	0	0	10	2	0	0	12	0	0	0
教育学部	男	96	88 (91.7)	38	50	36	11	3	0	42	3	3	1	1	41	3	0	6	40	8	2	0	44	4	0	2
	女	76	73 (96.1)	46	27	24	3	0	0	23	1	2	0	1	27	0	0	0	26	1	0	0	26	1	0	0
医学研究科	男	135	130 (96.3)	22	108	64	31	11	2	85	4	10	6	3	91	11	0	6	101	6	1	0	91	15	2	0
	女	101	99 (98.0)	6	93	63	28	2	0	67	17	3	2	4	86	5	0	2	82	8	3	0	88	4	0	1
保健学研究科	男	44	42 (95.5)	6	36	24	7	3	2	30	1	3	2	0	25	7	1	3	31	5	0	0	31	4	0	1
	女	36	36 (100.0)	2	34	21	8	4	1	20	9	4	1	0	29	3	1	1	29	3	1	1	29	5	0	0
附属病院	男	144	137 (95.1)	6	131	80	41	10	0	100	9	9	11	2	105	18	1	7	120	10	1	0	120	10	0	1
	女	444	442 (99.5)	11	431	301	105	23	2	327	62	18	10	14	398	21	4	8	372	40	17	2	419	11	1	0
理工学部	男	94	81 (86.2)	23	58	41	13	3	1	47	3	1	6	1	50	5	0	3	52	6	0	0	55	3	0	0
	女	16	16 (100.0)	2	14	11	3	0	0	11	2	1	0	0	13	1	0	0	14	0	0	0	13	1	0	0
農学生命科学部	男	82	77 (93.9)	19	58	42	9	7	0	48	3	4	3	0	51	2	1	4	49	9	0	0	52	6	0	0
	女	18	18 (100.0)	6	12	9	2	1	0	9	3	0	0	0	12	0	0	0	11	0	0	0	11	1	0	0
小計	男	798	747 (93.6)	146	601	390	144	59	8	482	34	41	36	8	492	58	8	43	529	62	10	0	529	62	3	7
	女	834	821 (98.4)	94	727	510	180	34	3	545	114	30	17	21	676	32	6	13	633	59	31	4	691	34	1	1
合計		1,632	1,568 (96.1)	240	1,328	900	324	93	11	1,027	148	71	53	29	1,168	90	14	56	1,162	121	41	4	1,220	96	4	8

※：附属研究所, 機構, 本部, 学内共同教育研究施設等を含む

※※：A；異常なし, B；要指導, C；要再検, D；要精査, E；治療中

③特定健診

(40歳以上75歳未満)

部局名	性別	受検対象者数	受検者数 (%)	腹囲 (%) 男性:85cm以上 女性:90cm以上	特定保健指導		
					積極的支援 レベルの対象者	動機付け支援 レベルの対象者	情報提供 レベルの対象者
事務局等	男	143	141 (98.6)	84 (59.6)	71	12	58
	女	121	118 (97.5)	15 (12.7)	8	14	96
人文社会科学部	男	51	41 (80.4)	17 (41.5)	11	5	25
	女	18	14 (77.8)	2 (14.3)	1	1	12
教育学部	男	95	87 (91.6)	40 (46.0)	28	9	50
	女	75	72 (96.0)	9 (12.5)	2	6	64
医学研究科	男	135	130 (96.3)	59 (45.4)	36	21	73
	女	99	97 (98.0)	12 (12.4)	10	12	75
保健学研究科	男	42	40 (95.2)	20 (50.0)	15	4	21
	女	36	36 (100.0)	8 (22.2)	6	4	26
医学部附属病院	男	131	124 (94.7)	74 (59.7)	55	18	51
	女	424	421 (99.3)	47 (11.2)	35	28	358
理工学研究科	男	93	80 (86.0)	48 (60.0)	31	13	36
	女	15	15 (100.0)	2 (13.3)	1	1	13
農学生命科学部	男	80	74 (92.5)	39 (52.7)	30	5	39
	女	18	18 (100.0)	4 (22.2)	1	1	16
小計	男	770	717 (93.1)	381 (53.1)	277	87	353
	女	806	791 (98.1)	99 (12.5)	64	67	660
合計		1,576	1,508 (95.7)	480 (31.8)	341	154	1,013

【血糖に関する項目】

空腹時血糖100mg/dl以上またはHbA1cが5.6% (NGSP値) 以上または薬物治療中

【脂質に関する項目】

中性脂肪150mg/dl以上またはHDLコレステロール40mg/dl未満または薬物治療中

【血圧に関する項目】

収縮期血圧130mmHg以上または拡張期血圧85mmHg以上または薬物治療中

(3) 特定業務従事者結果

(深夜業務従事者, 病原体・ホルムアルデヒド・エチレンオキシドを扱う業務従事者)

春 期

受検対象者	受検者数(%)	血圧測定		尿検査			視力(問診)	聴力(問診)
		受検者数	要観察数(%)	受検者数	有所見者数		日常生活や就労に支障あり	日常生活や就労に支障あり
					糖(%)	蛋白(%)		
534	534 (100.0)	534	34 (6.4)	534	11(2.1)	9(1.7)	0	1

(4) 情報機器作業従事者結果

問診票提出者数	作業区分人数 (%)		問診票の眼疲労を主とする項目の点数が25点以上の方 (%)
1,804	A	355 (19.7)	5 (1.4)
	A以外	1,449 (80.3)	25 (1.7)
合 計	1,804	(100.0)	30 (1.7)

(5) 特殊健康診断結果

春 期

現 所 属	実 人 員			放 射 線			鉛			有 機 リ ン			有 機 溶 剤			特 化 物		
	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者
文京町地区	保健管理センター	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人文社会科学部	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教 育 学 部	2	2	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	2	0	1	1	0
	理工学研究科	20	18	2	14	12	2	1	1	0	0	0	8	7	1	7	7	0
	農学生命科学部	25	25	0	5	5	0	0	0	2	2	0	16	16	0	10	10	0
文京町 集計	49	47	2	21	19	2	1	1	0	3	3	0	26	25	1	18	18	0
本町地区	アイトープ総合実験室	3	0	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	COI研究推進機構	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	大学院医学研究科	134	43	91	104	10	94	0	0	0	0	0	37	37	0	15	15	0
	保健学研究科	21	2	19	20	1	19	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0
	医学部附属病院	436	26	410	421	12	409	0	0	0	0	0	16	15	1	0	0	0
	被ばく医療総合研究所	9	7	2	5	4	1	0	0	0	0	0	3	1	2	1	1	0
本町 集計	604	79	525	554	28	526	0	0	0	0	0	58	55	3	17	17	0	
金木農場 集計	8	8	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	3	3	0	0	0	0
藤崎農場 集計	7	7	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	3	3	0	0	0	0
地域戦略研究所 集計	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0
総 計	670	143	527	576	48	528	2	2	0	17	17	0	90	86	4	36	36	0

秋 期

現 所 属	実 人 員			放 射 線			鉛			有 機 リ ン			有 機 溶 剤			特 化 物		
	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者	従事者数	健診七実施者	ホケカン実施者
文京町地区	保健管理センター	2	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	人文社会科学部	2	2	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	教 育 学 部	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	1	1	0
	理工学研究科	18	18	0	14	14	0	1	1	0	0	0	7	7	0	6	6	0
	農学生命科学部	26	26	0	5	5	0	0	0	3	3	0	16	16	0	9	9	0
文京町 集計	50	49	1	22	21	1	1	1	0	3	3	0	25	25	0	16	16	0
本町地区	アイトープ総合実験室	3	0	3	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	COI研究推進機構	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	大学院医学研究科	128	36	92	102	10	92	0	0	0	0	0	28	27	1	12	12	0
	保健学研究科	22	1	21	21	0	21	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0
	医学部附属病院	418	45	373	405	33	372	0	0	0	0	0	14	12	2	1	1	0
	被ばく医療総合研究所	8	8	0	5	5	0	0	0	0	0	0	3	3	0	2	2	0
本町 集計	580	91	489	536	48	488	0	0	0	0	0	47	44	3	15	15	0	
金木農場 集計	9	9	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	7	7	0	0	0	0
藤崎農場 集計	8	8	0	0	0	0	0	0	0	8	8	0	3	3	0	0	0	0
地域戦略研究所 集計	2	2	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0
総 計	649	159	490	559	70	489	2	2	0	18	18	0	83	80	3	32	32	0

(6) ストレスチェック結果

部 局 名	対象職員	受検者	未検査	回答率	高ストレス者	高ストレス者率	産業医との面接実施		産業医との 面接実施率	
							面接指導	健康相談		
文京町地区	706	603	103	85.4 %	59	9.8 %	10	10	0	16.9 %
本町地区	1,809	1,503	306	83.1 %	169	11.2 %	6	5	1	3.6 %
学園町地区	88	74	14	84.1 %	4	5.4 %	0	0	0	0.0 %
その他地区	91	69	22	75.8 %	5	7.2 %	1	1	0	20.0 %
合 計	2,694	2,249	445	83.5 %	237	10.5 %	17	16	1	7.2 %

5. 教育学部附属学校定期健康診断受検状況
尿検査

学 校 名	性 別	受検対象者数	受 検 者 数	(%)
小 学 校	男	254	254	(100.0)
	女	273	273	(100.0)
中 学 校	男	227	226	(99.6)
	女	226	226	(100.0)
特 別 支 援 学 校	男	38	38	(100.0)
	女	15	15	(100.0)
幼 稚 園	男	30	30	(100.0)
	女	24	24	(100.0)
小 計	男	549	548	(99.8)
	女	538	538	(100.0)
合 計		1,087	1,086	(99.9)

心電図検査

学 校 名	性 別	受検対象者数	受 検 者 数	(%)
小学校1年生	男	36	34	(94.4)
	女	33	31	(93.9)
中学校1年生	男	67	67	(100.0)
	女	59	59	(100.0)
特別支援学校1年生 (小学部・中学部・高等部)	男	11	11	(100.0)
	女	2	2	(100.0)
小 計	男	114	112	(98.2)
	女	94	92	(97.9)
合 計		208	204	(98.1)

6. 保健管理センター月別利用状況

学 生

月別	疾患別 性別	外 科 系							内 科 系							検 査 項 目			その他	合 計	備 考
		創傷	捻挫	打撲傷	刺傷	熱傷	皮膚疾患	眼科疾患	耳鼻咽喉疾患	その他	呼吸器疾患	消化器疾患	運動器疾患	泌尿器疾患	中毒	その他	血圧測定	心電図	尿検査		
4月	男	1								2					2	1			1	7	外科系及び内科系の その他の欄は健康診断 相談の件数。 ※附属学校心電図検査 小学校1年 男 34名 女 31名 中学校1年 男 67名 女 59名 特別支援学校 (小1・中1・高1) 男 11名 女 2名
	女	2	1						1	1					6				26	36	
5月	男	3				1		1						10				72	87		
	女													9	1			62	72		
6月	男	1		1	1									6				245	254		
	女	3	2	1						1				18	2			104	131		
7月	男	4		2										17	2			151	176		
	女	2		1	1	1				1	4			26	2			107	145		
8月	男	1				1								7				42	51		
	女	1						1						5				24	31		
9月	男							1						5				27	33		
	女	1									2			9	1			27	40		
10月	男	1		1										3		1		32	38		
	女		1						1	1				11		1		13	28		
11月	男	3						1						2				15	21		
	女			2		1					1			6				12	22		
12月	男	3												2				17	22		
	女	2			1									8				9	20		
1月	男													1				20	21		
	女													6				2	8		
2月	男					1								2				21	24		
	女			1				1						1				8	11		
3月	男					1								5				48	54		
	女							1						4				43	48		
小計	男	17	0	3	2	0	4	0	0	3	2	0	0	0	62	3	1	0	691	788	
	女	11	4	5	0	2	1	1	1	2	2	4	6	0	109	5	2	0	437	592	
合計		28	4	8	2	2	5	1	1	5	4	4	6	0	171	8	3	0	1,128	1,380	

職 員

月別	性別	外 科 系							内 科 系							検 査 項 目			合 計	備 考
		創傷	捻挫	打撲傷	刺咬傷	熱傷	皮膚疾患	眼科疾患	耳鼻咽喉疾患	その他	呼吸器疾患	消化器疾患	運動器疾患	泌尿器疾患	中毒	その他	血圧測定	心電図		
4月	男女										1								1	外科系及び内科系のその他の欄は、健康相談の件数。
5月	男女										1				1				1	
6月	男女														3				3	
7月	男女										1				1				1	
8月	男女						1					2							0	
9月	男女	1													4				5	
10月	男女						1								1				1	
11月	男女															1			0	
12月	男女														1				1	
1月	男女	1													1				2	
2月	男女															1			1	
3月	男女			1														1	0	
小計	男女	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0	0	0	0	14	
合計	男女	1	0	1	0	0	2	0	0	0	1	5	0	0	8	0	0	0	18	
合計		2	0	1	0	0	2	0	0	0	1	6	0	0	20	0	0	0	32	

月別医療機関紹介状数（学生・職員）

月	男		女	
	健診	一般	健診	一般
4月		2		2
5月	8	2	4	1
6月	1	5	1	12
7月	3	7	6	5
8月	0	3	3	0
9月	1	3	1	6
10月		1		4
11月		4		6
12月		3		4
1月		1		6
2月		2		2
3月		1		2
計	13	34	15	50

その他 英文の診断書 0

7. 新型コロナワクチン一括接種について

「新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大に伴い、ワクチンの職域接種を実施した。

2021.6.9に保健管理センター所長を中心として新型コロナワクチンプロジェクトを始動し、短期間で準備作業を行った。

<接種対象者総数>

- ・弘前大学 学生・教職員
- ・大学コンソーシアム 学生・教職員（柴田学園大学，弘前学院大学，弘前医療福祉大学）
（連携大学）

	1回目接種	2回目接種	3回目接種		計
	弘前大学	2021.6/27～7/10 5,923名	2021.7/25～8/7 5,888名	2022.3/5,3/6,3/13, 3/19,3/26,3/27 4,258名	
大学 コンソーシアム	2021.7/11～7/14 1,562名	2021.8/8～8/11 1,533名	2022.3/20,3/21 1,216名	2022.5/22 110名	4,421名

<1日あたりの接種対応数>

	1回目・2回目		3回目
	平日 PM	土日 AM・PM	土日・祝日 AM・PM
接種対応数	370名	700名	830名
接種レーン	3レーン	4レーン	4レーン
医師（問診）数	2名	AM・PM 各2名	AM・PM 各2名
看護師（接種等）	9名	AM・PM 各10名	10名

- ・1回目，2回目接種について 平日は午後，土日は午前・午後実施
- ・3回目接種について 土日祝日 午前・午後実施（2022.5/22は午前のみ）
- ・接種時間 午前10：00～12：40
午後14：00～16：40

<接種スタッフ>

- ・問診 附属病院各科及び医学研究科所属医師（医学科，附属病院へ依頼の上，各科まんべんなく担当いただいた。）
- ・ワクチン接種，経過観察，充填，接種補助業務，救急対応
附属病院歯科医師，看護師，保健学研究科教員，保健管理センター看護師
コンソーシアム1回目・2回目は，コンソーシアム大学の看護師等が担当，3回目は弘前大学で担当

<参加スタッフ総数>

1回目、2回目接種では、医師・看護師・事務職員あわせて、延べ1,080人

<準備について>

- ・会場の設営は一方向の動線とし、接種の重複などのトラブルを回避
- ・附属病院薬剤部に協力いただき、経過観察終了時に希望者にはアセトアミノフェン5回分処方
- ・針刺事故対応、救急時対応は附属病院に依頼
- ・注射等で体調不良になったことがある人には臥位で対応できるようベッドを準備
- ・受付システムを採用し20分ごとに人数を割振り、人数が集中しないようにした
- ・QRコードを用いた予約、受付システムを作成いただき、当日の予約人数、接種者数等の管理を行った。
- ・コンソーシアム大学に関しては、各大学の事務担当者にも参加いただき、大学ごとに予約、受付管理とした。
- ・ワクチンの保存、管理は接種会場である学生会館内で行う必要があったため、会館内の1室に貸与のディープフリーザーを設置、非常電源ありのコンセントを利用した。定期的な温度管理を要した。
- ・事前の予約者数に応じて、前日に解凍するワクチン本数を確認し、冷蔵庫管理した。
- ・接種会場に、ストレッチャー、車いす、酸素ボンベ、エピペン、パルスオキシメーター、血圧計を準備。経過観察スペースの一角に長いすを配置し、体調不良者（軽症）の経過観察スペースとした。
- ・接種会場と同じ階に休養室を設置し、救急薬品、簡易ベッドを準備した。

<ワクチン接種について>

- ・ワクチンはすべてモデルナ社製使用
- ・接種時には、本数管理のため1トレイに10本セットとして準備した
- ・看護師の役割は接種、注射補助、ワクチン充填、経過観察に分け、1時間程度でローテーションした（事前に保健管理センタースタッフが、役割表を作成）
- ・接種等看護師に接種の流れ、手順等についてホケカン看護師が毎回オリエンテーション実施
- ・参加した看護師に改善点などを指摘してもらい、その都度改善していった
- ・問診時、アレルギー等により経過観察時間が30分以上必要な方には、問診時に赤色のバーをクリアファイルに挟み判別した。
- ・ワクチンの温度管理のため、接種会場の各セッションに温度計を設置した。（1、2回目は夏季の接種のため、温度管理に注意を要した）
- ・会場にCO2モニターを設置して、適宜換気を行った。
- ・ワクチン接種への緊張、不安軽減のため、接種会場でBGMを流した。
- ・接種予約をしても実際に接種に来ない方もいるため、接種終了時間に向けて、常温に移行するワクチンの本数の確認、調整を要した。（ワクチンを充填スペースで常温管理とした場合に、予約数より、接種者数が10名以上少なくなった場合には、1バイアルの破棄となるため）
- ・1、2回目接種期間は、平日午後にも連日接種を行ったため、健診を同日に実施した日もあった。また、附属病院スタッフも平日参加では、日程調整が難しい場合も少なくないということもあり、3回目接種以降は、土日を利用しての接種とした。

<ワクチン接種による体調不良者について>

1) 接種当日の経過観察中

- ・1回目接種時には、経過観察期間中に主に血管迷走神経反射による一過性の体調不良者が多かったが、経過観察にて軽快した。2回目接種以降は、1回目接種時の体調不良者を抽出して、臥位での接種を行うことで、体調不良者数は減少した。(1回目のワクチンでの体調不良者は、2回目以降のワクチン接種時には黄色のバーをクリアファイルに挟み判別し、臥位で接種した)

2) 接種日翌日以降の体調不良者

- ・発熱や接種部位の局所症状による一過性の副反応が主体であったため、解熱鎮痛剤での対応が可能であったと考える。
- ・平日日中は保健管理センターにて、副反応に対する電話相談および診察を実施した。診察の結果、病院の紹介が必要なケースは、適宜病院紹介とした。
- ・コンソーシアムで接種した学生、職員は各大学で対応いただいた。夜間休日は休日夜間診療所および輪番病院への受診とした。弘前大学救命救急センターにもバックアップを依頼した。弘前大学学生、職員で、翌日以降の体調不良者は、自己申告にて公休扱いとした。

<まとめ>

全学生、教職員を対象とした大規模なワクチン接種という、全く未知の経験であったが、学長、理事のリーダーシップのもと、早い段階で職域接種を計画、実施することができた。

会場設営、準備、実施においては、総務部をはじめとした事務部各ご担当、また、附属病院各科、看護部、薬剤部、感染制御センター、高度救命救急センターの全面的なバックアップをいただき、1、2回目接種では、最終的に弘前大学の学生4,770人（全体の70%）、教職員1,150名の合計5,920名にワクチン接種を実施することができた。(学生は、先行接種の医学部・保健学科学生を含めると、全学生の80%に実施)

本学のみではなく、弘前市の連携大学の学生、教職員にもワクチン接種を実施できたことは、新型コロナウイルスの感染予防および重症化予防にある程度の効果が得られたのではないかと考える。

Ⅲ 令和3年度カウンセリング報告

令和3年度 カウンセラー業務等報告

令和3年度は、専任カウンセラー田名場美雪、高橋恵子、および非常勤カウンセラー浅原奈苗（学外）で保健管理センター（文京キャンパス）および医学部本町キャンパスで相談活動にあたった。

1. 月別利用状況（上段は事例数，下段は面接延べ数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間計
学部生	30 (50)	20 (52)	44 (99)	29 (61)	11 (33)	16 (40)	16 (56)	19 (78)	18 (65)	13 (36)	13 (31)	16 (28)	245 (629)
学部留年生	3 (5)	1 (4)	0 (3)	0 (4)	0 (2)	1 (2)	0 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (24)
大学院生	6 (10)	3 (4)	4 (8)	5 (9)	4 (5)	3 (9)	1 (12)	2 (9)	1 (11)	2 (11)	2 (6)	2 (8)	35 (102)
その他学生	0 (0)												
卒業生	3 (3)	0 (0)	0 (0)	1 (3)	0 (0)	1 (2)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	1 (4)	0 (0)	1 (7)	7 (20)
家族等	1 (1)	0 (0)	2 (5)	0 (0)	0 (0)	2 (3)	3 (9)	1 (6)	0 (1)	0 (1)	4 (7)	2 (4)	15 (37)
教職員	8 (19)	4 (9)	14 (27)	7 (9)	3 (9)	4 (10)	7 (14)	9 (24)	5 (13)	3 (10)	5 (10)	1 (6)	70 (160)
教職員の家族等	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	3 (4)
新規事例数合計	51	28	64	42	19	27	27	33	24	19	25	22	381
面接延べ数合計	(88)	(69)	(142)	(86)	(50)	(66)	(94)	(120)	(90)	(62)	(55)	(54)	(976)

2. 主問題別事例数・面接延べ数

1) 学部生・留年学部生・大学院生・その他学生・卒業生からの相談内容

	精神疾患	性格・心理・行動	生活全般	進路	学業	対人関係	コンサルテーション	計
人社	16 (33)	20 (68)	10 (35)	4 (7)	2 (7)	2 (10)	2 (2)	56 (162)
教育	5 (16)	13 (43)	10 (18)	2 (4)	3 (9)	1 (3)	1 (2)	35 (95)
理工	8 (37)	23 (62)	9 (15)	7 (13)	5 (11)	4 (19)	0 (0)	56 (157)
医	11 (23)	27 (79)	9 (20)	8 (18)	12 (20)	5 (5)	2 (3)	74 (168)
農生	16 (34)	22 (70)	12 (41)	6 (12)	5 (11)	10 (24)	1 (1)	72 (193)
その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
新規事例数合計	56	105	50	27	27	22	6	293
面接延べ数合計	(143)	(322)	(129)	(54)	(58)	(61)	(8)	(775)

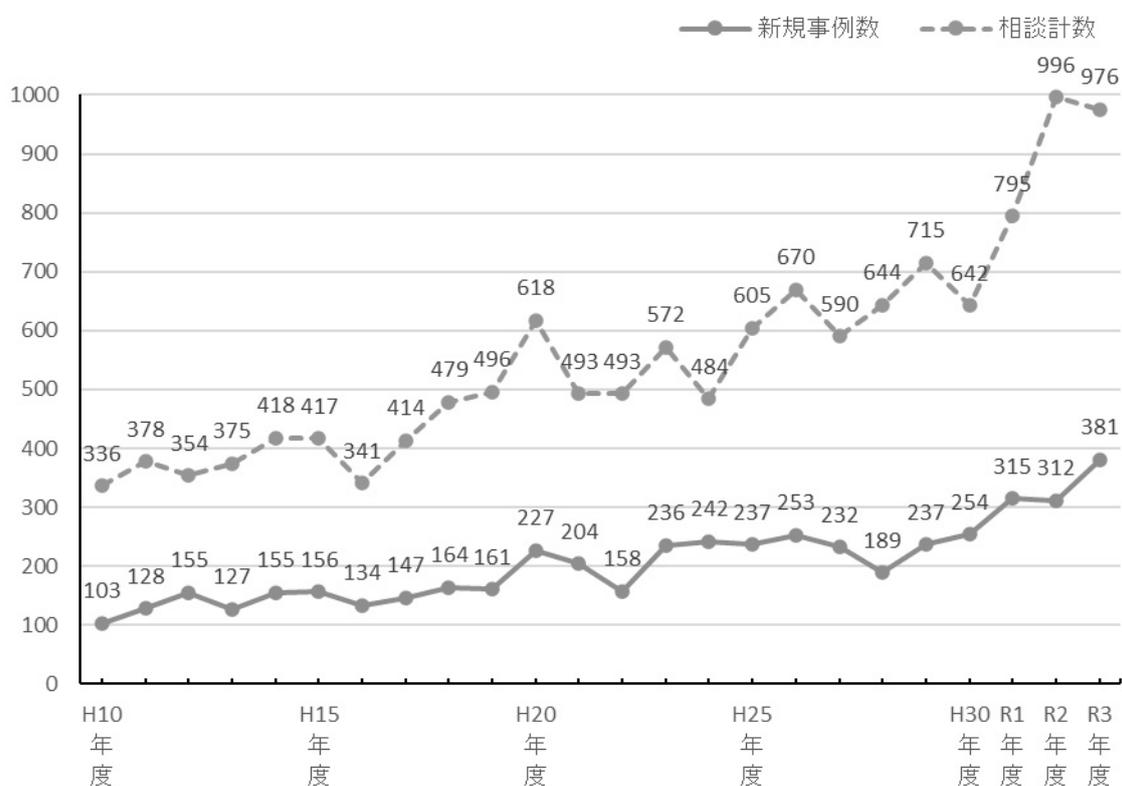
2) 教職員からの相談内容

相談内容	事例数	面接延数
学生についてのコンサルテーション	40	(83)
教職員についてのコンサルテーション	9	(22)
心身の健康問題	18	(50)
対人関係	3	(5)
合計	70	(160)

3. 相談形態ごとの相談件数

相談形態	面談	メール	電話	手紙	合計
延べ数	739	174	60	3	976

4. 平成10年度以降の利用状況推移



IV 保健管理センター概況

保健管理センター概況 (令和3年4月1日現在)

(1) 保健管理センター運営委員会

委員長	佐藤 研	(保健管理センター所長・教授)
副委員長	萱場 広之	(医学部附属病院検査部長・教授)
委員	大倉 邦夫	(人文社会科学部准教授)
〃	田中 完	(教育学部教授)
〃	加藤 博之	(大学院医学研究科教授)
〃	大津 美香	(保健学研究科准教授)
〃	前田 拓人	(理工学研究科准教授)
〃	濱田 茂樹	(農学生命科学部准教授)
〃	青木 昌彦	(医学部附属病院放射線部長・教授)
〃	後藤 真吾	(総務部人事課長)
〃	三上 徹	(学務部学生課長)
〃	渡部 明	(施設環境部環境安全課長)

(2) 職員

所長	佐藤 研	教授
カウンセラー	田名場 美雪	准教授
カウンセラー	高橋 恵子	講師
看護師	工藤 誓子	
〃	嘉山 恵子	
〃	澤田 友美	
保健管理担当	佐々木 宣子	係長
事務補佐員	本田 鏡子	
臨床検査技師	檜木 英子	
検査助手	相馬 亜妃子	
カウンセラー	浅原 奈苗	学外カウンセラー

(3) 学校医

主任学校医	(泌尿器科)	大山 力	医学部附属病院長
学校医	(内科)	珍田 大輔	医学部附属病院准教授
〃	(内科)	富田 泰史	大学院医学研究科教授
〃	(内科)	蔭山 和則	大学院医学研究科准教授
〃	(内科)	佐藤 研	保健管理センター所長
〃	(神経精神科)	中村 和彦	大学院医学研究科教授
〃	(眼科)	齋藤 昌晃	医学部附属病院講師
〃	(耳鼻咽喉科)	佐々木 亮	大学院医学研究科准教授
〃	(皮膚科)	松崎 康司	医学部附属病院講師
〃	(整形外科)	和田 簡一郎	医学部附属病院講師
〃	(外科)	脇屋 太一	医学部附属病院講師
〃	(小児科)	相澤 知美	医学部附属病院助教
学校歯科医		久保田 耕世	医学部附属病院講師
学校薬剤師		磯木 雄之輔	弘前市薬剤師会 (学外)

編集後記

3年目を迎えたコロナ禍，大学キャンパスにも引き続き様々な世相を反映する変革の波が押し寄せています。水際に迫る戦争の危機や自然災害，生活物価の高騰など，不安な材料は後を絶ちません。先行き不透明な不確実性の時代を生き抜くには，今も昔も心と体の健康が大切であることには変わりありません。体に良いものを食べ，質のよい十分な睡眠，定期的な運動など基本的な生活を守ることが一番難しかったりもしますが，それらを支える保健管理センターの役割は，なお一層重要になってくると思われまふ。これからも教職員，学生の皆さまや，学内外の方々と力をあわせ，ともに進んで参りたいと思ひます。どうぞ今後とも温かいご支援ご鞭撻を賜りますよう，よろしくお願ひ申しあげます。

(高橋 恵子)

弘前大学保健管理概要 43号

令和4年

発行編集者 弘前大学保健管理センター
青森県弘前市文京町1
TEL (0172)39-3128
